

2026

1月

# ゆめのね通信

～ 地域の子ども・子育て応援団 ～

No.12 / 2026(令和8)年1月25日発行  
(1月、5月、9月の25日発行)  
児童家庭支援センター ゆめのね  
横浜市保土ヶ谷区和田2-2-7 メゾン横山1階  
TEL 045-465-4472 発行責任者:山下 きよ子

## 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。平素より当センターの活動に多大なご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

児童家庭支援センターゆめのねは2018年に開所いたしました。昨年は心理担当職員や子育て短期支援員を新たに迎え、体制の充実を図るとともに、本県初開催となる全国児童家庭支援センター研究協議会全国大会を通じ、子ども・家庭を取り巻く課題について全国の仲間と共に考える貴重な機会を得ました。児童相談所における児童虐待相談対応件数は増加を続け、地域の見守る力の広がりを感じる一方、保土ヶ谷区唯一のセンターとして、支援を必要とする子ども・家庭を支える拠点となりえているか、自らに問い続ける日々です。

本年も関係機関の皆様と連携し、地域に根差した支援に努めてまいります。

児童家庭支援センターゆめのね  
センター長 山下きよ子



2025年10月、全国児童家庭支援センター研究協議会 全国大会が神奈川県で初めて開催されました。



神奈川の児家セン・こ家センメンバーで全国の皆さんを出迎えました。

## おもちゃ文庫 (地域活動ホームゆめ) での親子向けイベント

### 子育ておしゃべりカフェ

未就学児～小学3年生までのお子さんと、その保護者の方を対象に、2か月に一度開催しています。ゆるりとお子さんを見守らせていただいたり、一緒に遊んだり、ちょっとした相談ごとを聞いたり…。地域活動ホーム「ゆめ喫茶」のお菓子&飲み物を楽しみながら、ちょっとゆっくりしてください♪



～ 今年度の予定 ～

子育ておしゃべりカフェ 2/12  
ゆめのね心理さんが訪問 3/12

※ いずれも 10:00～12:00の開催です ※

### ゆめのね心理さんが訪問

今年度から、2か月に一度、ゆめのねの心理担当職員がおもちゃ文庫を訪問しています。心理・発達の視点から、子育てのお悩みや疑問にお答えします。小さなお子さんも一緒に、ぜひお気軽にご来場くださいね♪



## 横浜型児童家庭支援センター ゆめのね

児童福祉法に基づき横浜市から認可を受け、2018年に開設した児童福祉施設です。相談員や心理担当職員などを含め、10人の職員が支援にあたります。

### 子ども・子育て 相談事業

0～18歳までの子どもに関する相談をお受けし、必要に応じて、関連機関と協力しながら解決に向けたお手伝いをします。

### 子育て短期支援事業

2～12歳(小学生まで)の子どもを対象とした横浜市の委託事業で、利用の必要性を区や児童相談所が判断し、必要と認められた場合に利用できる事業です。利用には登録が必要で、世帯の収入に応じた利用料が発生します。

### 地域交流事業

イベントや子育てに役立つ講座などを通し、地域の方々と交流します。

### 里親子・ファミリーホーム等への支援

地域で生活する里親や里親宅で暮らす子ども、ファミリーホームの養育者の方からの相談をお受けしています。

- 相談時間は月～金曜の平日 10～17時 (※年末年始12/29～1/3を除く)
- 男性スタッフ・女性スタッフが常駐

### ◆ 相談例 ◆

- ・子どもの発育状況が気になる…
- ・イライラして子どもに当たってしまう…
- ・(子ども)学校でイヤなことがあった…

### 相談方法をえらべます

電話	訪問	来所
匿名でも結構です。保護者の方はもちろん、お子さん自身からの相談もお受けします。	ご自宅やゆっくりお話ししたい方におすすめです。電話にてまずはご相談ください。	相談室をご用意しています。お子さんを遊ばせながら相談したい、という方もお気軽にご相談ください。

### 職員

センター長 山下 	相談員 橋間 佐藤 毛利 
心理担当 手嶋 川島 	支援員 松下 佐々木 片井 三浦 

### 子育て応援団長「のねさん」

好きなことはひとのお話をきくこと。夢はふたばから花を咲かせてお友だちにとどけることです。



元気と成長のバロメーター  
花が咲く、かも!?

じょうろは  
支え合いのシンボル

ここぞ!というとき  
色が変わる!?

### アクセス 相鉄線 星川駅・和田町駅から徒歩約10分



まよったらお電話ください

### 子ども・子育ての「あるある」を4コマ漫画でお届けします!



# マルっとほどがや

保土ヶ谷区などで様々な活動をおこなう方々を  
ゆめのね職員が訪問、紹介します



～中学生～高校生世代のゆるやかな居場所～

## ハッピー スクエア HAPPY SQUARE (通称「ハピスク」)

～保土ヶ谷区 青少年の地域活動拠点～

- ★ 運営 特定非営利活動法人リロード
- ★ 場所 保土ヶ谷区天王町1-30-17 MKシティビル1階
- ★ 開所時間 火～土曜日 15:00～20:00 (土曜のみ13:00～18:00)  
※月曜・日曜・祝日・年末年始は閉所
- ★ 利用料 無料
- ★ 対象 中学生・高校生年代の青少年
- ★ 電話 045-334-3042



月間の予定やイベントのお知らせは、  
InstagramやXから確認できます♪



最寄り、相鉄線「天王町」駅。  
歩いて8分。ビルの1階です。

### ゆめのねインタビュー

HAPPY SQUARE 担当  
**みきてい さん**  
(山田 美樹さん)

特定非営利活動法人リロードの職員として、5年前から、HAPPYSQUAREの企画・運営に携わっている

### ハッピースクエアは、青少年の居場所と聞きました。 具体的に教えていただけますか？

はい。横浜市が実施する『青少年の地域活動拠点づくり事業』として、主に地域の中学生・高校生対象に、「居場所の提供」と「体験機会の提供」をしています。子どもたちが安心して集える空間を提供したり、子どもたちが企画・運営するイベントの開催、また、ボランティアや職業体験、地域活動への参加のきっかけ作りを行っています。初めての方でも足を運びやすいよう、毎週土曜日には気軽に参加できるプログラムを組むなど工夫しています。横浜市内には、同様の拠点が7つあり、拠点ごとに運営方針や活動内容は異なります。

### どのような方々が参加されていますか？

最近では部活を引退した中学3年生が多いですね。保土ヶ谷区だけでなく、近隣の旭区や瀬谷区から来る子もいます。「ただ来て、過ごしていい場所」なので、部活の後に来たり、塾の前に立ち寄ったり、待ち合わせ場所に使ったり…、過ごし方は様々です。子どもたちがここを知るきっかけは、友人からの口コミや、学校で配布される情報誌「ふあんみつけ」(※右欄参照)が多い印象ですね。SNS (X、Instagram) も運営していますが、そちらはお子さ

んの居場所を探す保護者の方が見つけることが多いようです。

### 運営されるうえで、工夫されていることはありますか？

はい。中学1・2年生など、より多様な子どもたちに知ってもらい、新規利用者を増やすことが常に課題です。今年の夏には、大学生ボランティアによる『夏の学習会』を小学生も対象に開催し、将来的な利用のきっかけ作りを狙いました。また、大学生がアルバイトや受験について語る体験談イベントも実施し、特にアルバイトの話は、子ども達が自分自身の長所や興味、また、少し先の未来を考える良い機会になったと感じています。

### ふあんみつけ

高校生年代の居場所や相談先を見つける  
横浜市の情報サイト。  
不安や悩みを相談できる場所、ゆっくり過  
ごしたり、勉強ができる場所を探すことが  
できます。



中高生が気軽に集まり、活動できる居場所「ハピスク」

登録・利用料なし

たみでゴロゴロ、もOK!

待ち合わせに利用する人も!

夜8時まで空いているよ

Wi-Fiを自由に使える♪

パソコンもあるよ

来所した皆さんのいろいろな「足あと」

### 1月の予定

火	水	木	金	土
		1 close	2 close	3 close
6 学習デイ	7	8	9	10 百人一首大会 14時-16時
13 学習デイ	14	15	16	17 クロスワード (理科・算学等から選択) 14時-16時
20 学習デイ	21	22	23	24 アート (塗り絵・スクラッチ) 14時-16時
27 学習デイ	28	29	30	31 カードゲーム (トランプやUNO等) 14時-16時

「学習デイ」の日は、  
教材を持っていくといいみたい!

そのほか、2020年に始めた『シチズンシップトライアル』もハッピースクエアの特徴的な活動です。子どもたちが自ら社会課題を見つけ、テーマ設定から計画、実行までを一貫して行う活動です。過去には「超高齢社会」や「CO2排出」といったテーマで、高校生が主体となり活動しました。大学生やスタッフがサポートしますが、子どもたち自身が考えて行動する貴重な機会であり、生きていく力をつけるために多くの中・高校生にぜひ参加してもらいたいですね。

### 子どもたちとの触れ合うなかで、感じることはありますか？

一人でふらっと訪れる子の背景に、家に居場所がないといった事情が隠れていることもあります。また、学校や塾に追われる中で、子どもたちが自分で考えて決める機会が減っているとも感じますね。ここでの活動が、普段とは違う視点を得たり、自らの興味で何かを始めたりするきっかけになればと考えています。思春期以降は子どもが大きな変化を迎える時期です。「こういう場所もあるんだな」と様々な選択肢を知っておくことの必要性を強く感じますね。

高校を卒業したらもう来てはいけないの？、と聞かれることもあります。年齢の上限ははっきりと設けていません。幼い子を連れてくる元利用者や、「バイト、辞めちゃった」とふらっと立ち寄る子もいます。18歳でいきなり大きな責任を任される中で、早い段階から学校や家庭以外の尺度で物事を見る体験をしておくことは、その子にとって大きな力になると思います。

### 「支援」も大事ですが、子ども同士で学ぶことや感じる ことがの方が何倍も大きいと、日ごろの支援で感じ ます。いかがですか？

普段自信のない発言が目立つ子が、友達がきっかけで地域のボランティアに参加したんです。人とコミュニケーションを取らないといけな場面が多く、休憩時に「もうだめだ」とか言いながらも、頑張っ  
て最後までやり遂げたんですよ。自分より“できる”  
子と比べてしまう気持ちはどうしてもあるかもしれませんが、無理してできることをつくらなくても、「できること、こんなにあるんだ」と、活動を通して気付いてほしいなと思いますね。

### 子どもたちが“戻れる居場所”として、今後ハッピースクエアが果たす役割は大きいと感じます。どんな場 所にしていきたいですか？

親や身近な人に言いづらいことを抱える思春期の子どもたちが、「疲れちゃった」とポロっと言える場所、頑張る必要もない場所、くつろげる場所でありたいです。どんな子も、きっかけがあれば何かができることに気づき、失敗してもいいと思えるはずです。学校や家庭だけではない、多様な大人や年代の人と交流できる場として続けていきたいです。